
基調論談

経済危機後の経営環境変化と 新たなビジネスモデル

経済危機を境に、製造業を取り巻く競争環境は大きく変化した

■リーマンショック前後で何が変わったか

- 経済危機の本質
- 米国消費市場の冷え込みと日本経済へのインパクト
- G20と中国

■新興国の成長

- 世界のけん引役としての中国
- BRICS、ポストBRICS

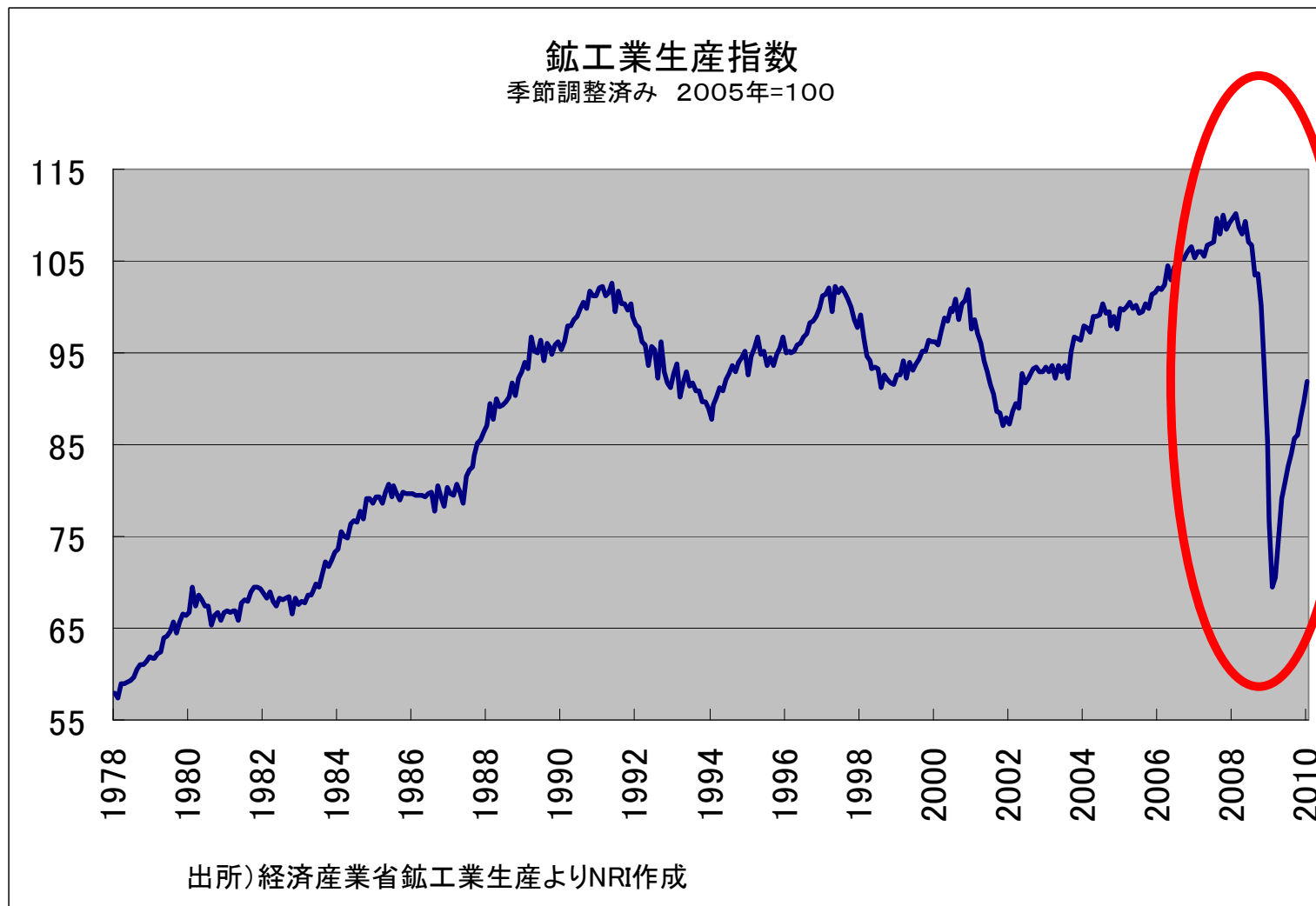
■主要企業の戦略対応

- 新興国市場の本格開拓
 - M&A、開発拠点のグローバル展開 等々
- 新興国発の有力企業の登場
- 環境対応の必要性

■新政権の対応 . . . 新成長戦略

- 指摘されている6つの分野
 - 環境/エネルギー、健康、アジア、観光/地域活性化、科学技術立国、雇用/人材

今回の経済危機は、かつてないインパクトを製造業に与えた



経済危機後の世界景気のけん引役として、新興国、とりわけ中国の重要性がクローズアップされてきた

■主要国の中で、中国の対応の速さと大きさが注目

- 中国は4兆元、GDP比約14%の大型景気対策
- 農村部（内陸部）での需要拡大に注力。中間所得層の需要拡大が世界景気のけん引役に。

■2020年にかけて、中間所得層は中国中心に激増が予想される

環境対応の重要性はいつそう高まってきた

■鳩山総理、民主党政権

- 温室効果ガス削減の中期目標について、主要国の参加による「意欲的な目標の合意」を前提に「1990年比で2020年までに25%削減を目指す」と表明

■中国

- 2020年までに中国の単位GDPあたり二酸化炭素(CO₂)排出量を2005年比で40-45%削減することを目標とする
- 一次エネルギー消費に占める非化石エネルギーの割合を2020年までに約15%に引き上げる。

■COP15（コペンハーゲン合意）

- 世界全体としての長期目標として産業化以前からの気温上昇を2度以内に抑える。
- ポスト京都の枠組みを交渉する国連作業部会を来年も継続

新成長戦略では2020年を目途に、6つの分野が期待されている

■環境・エネルギー

- 新規市場50兆円、新規雇用140万人
- 日本の技術で世界の排出13億トン削減

■健康（医療・介護）

- 新規市場45兆円、新規雇用280万人
- 需要に見合った産業育成と雇用の創出

■アジア

- APEC自由貿易圏構築
- アジアの所得倍増

■観光・地域活性化

- 訪日外国人2500万人、新規雇用56万人
- 食料自給率50%、農産物輸出1兆円

■科学技術

- 官民の研究開発投資GDP比4%以上
- 情報通信による国民の利便性向上

■人材

- フリーター半減、女性M字カーブ解消
- 出産後、希望者すべてが就業復帰

■ **新興国でも稼ぐ**

■ **中低価格品でも稼ぐ**

■ **環境対応をはかる**

本日の議論

1. **各業界の環境変化と中期的な展望**
2. **中期展望を踏まえた技術開発の方向性変化**
3. **各社に対するトピックスQ&A**
4. **知財部・知財担当者への期待**